

染めてみよう 品川区立南大井保育園（東京都品川区）

事例 染めてみよう（玉ねぎの皮の煮汁は何色に？）

【見る、触る、比較する、化学体験・味覚】

様々な豆の煮豆を楽しんだことをきっかけに、染色をすることになった。（実践事例集 vol.4 2章B-3の事例参照）玉ねぎの皮がたまったので子どもたちに「玉ねぎの皮を煮てみよう」と声をかけて活動を始めた。

鍋に水を入れて一人一掴みずつ鍋の中に玉ねぎの皮を入れみんなで鍋を運んでコンロの火にかける。「こぼれないようにそっと」と声をかけ合いながら運んでいる。菜箸で玉ねぎの皮を押したり、かき混ぜたりする。

5歳R児「玉ねぎ 切ると涙が出るんだよね」
 保育者 「えっ！玉ねぎ切った事あるの？」
 5歳R児「あるよカレー作るとき手伝った」
 4歳A児「ぼくもあるよ、涙でた」
 5歳R児「でもね、おばあちゃんは出ないんだよ」
 保育者 「そう、おばあちゃんはどうして出ないのかな？」

5歳R児「うん、おばあちゃんは強いから！」
 そんな会話をしながら煮汁が出来「玉ねぎの皮を煮たからおいで！」と友達を呼びに行く。4、5歳児が集まり、みんなで鍋を囲むと

5歳A児「わー いいにおい」
 5歳B児「カレーのにおい」
 5歳C児「スープのにおい」
 4歳R児「食いたい」
 保育者 「味もみてみよう」と子どもたちの手の平に煮汁を数滴乗せる。



5歳R児「うわっ 辛い！」
 保育者 「苦いね、これ苦いって言う味だよ」
 それぞれ、味をみて「まずい！」など感想が出る
 保育者 「どんな色している？」
 5歳M児「赤い」 4歳A児「赤い」
 4歳H児「茶色！」 4歳O児「しょうゆの色」
 4歳D児「おしっこの色」等など出る。
 保育者 「これから40 にさまします。40 ってどれ位の熱さかな？」
 子どもたち「わからない」
 保育者 「お風呂に入る時のお湯の温度よ」

熱湯を鍋から鍋に繰り返し移し、40 位まで冷ます。

保育者 「こうしてなべに何回も移すとなぜ冷めるんだろうね」
 4歳M児「風が吹いて来るから冷める」
 4歳N児「そう、ほら 風！」
 保育者 「あたり、ベランダから吹いてくるね」
 4歳C児「さっき30 になっちゃった」
 （知っている温度を言いながらみている）

みどころ

子どもたちが興味をもち、「染める」ということからイメージして出てくる素材から、「食」に関することが生活の中に位置づいていることが分かります。身近な食材の「食べられないので捨ててしまうところ」を利用して、「染める」という活動をしたことで、日常の遊びからは体験できない喜びや学びを味わうことができました。匂いや色、味、温度など、様々な感覚・感性を働かせて引き出された表現により、体験を通して気付いたり考えたりしていることを互いに共有することができ、共通の学びや感動体験に結びついています。

「そうだ」「そうね」と言いながら熱くて触れなかった煮汁が冷めて皆で手を入れて40 を確認する。冷めたところでその中にさらしをみんなで順番に入れ、また火にかける。ミョウバンで媒染する。染め上がった黄色の布をみて「きれい！」なんて茶色にならないの？」など様々な感想が出た。

5歳M児 「先生、これで何かつくろうよ！」
 保育者 「なにを作ったらいいかな？」
 5歳T児 「ドレス！」 5歳Y児 「ハンカチ」
 保育者 「先生は三つ編みにして縄跳び作ってみたいけど」と用意した縄跳びで跳んでみる。
 5歳S児 「すごい！僕もそれ作りたい！」

**事例 “ぶどうの皮” “赤しその葉” で染めてみる
【化学反応体験・諸感覚（味覚）】**

給食デザートで巨峰の皮と赤しその葉の煮汁の味をみて
 4歳T児「おいしい！」
 4歳S児「すっぱい！」
 5歳H児「ブドウの匂いがする」
 5歳M児「ワインの味！」



赤しその葉は煮ると緑になる事や煮汁に色止めのため酢を入れると化学反応をおこし煮汁の色が茶色からピンクに変化する瞬間に「うわーっ！」と驚いたり、90 の鍋の中を菜箸でかき混ぜて熱さを実感したり、布が染まっていく過程で様々な事を学んだ。



職員の話し合いから

職員も染色についてインターネットで調べるなど一定研究し、子どもたちと実践をしながら子どもの驚きや喜びを一緒に共感する事が出来た。豆の煮汁から始まった染物の取り組みは玉ねぎの皮、ぶどうの皮、赤しその葉と連続してやってみることで色の変化にとどまらず「熱」（温度の変化）や、あまり経験のない味（苦味、酸味等）を体験した。この中で様々な物事に対する興味・関心が育ち知識の広がりや学ぶ土台をふくらませることが出来た。5歳R児は玉ねぎの皮を見ながら、おばあちゃんとの過去の体験や自己経験を思い出し、その事を現実と関連付け、また分析をしながら、自ら結論を出していることには驚かされた。今回の展開では環境教育の視点から玉ねぎの皮や巨峰の皮など生ゴミとして捨てられてしまうものをリユースする事で物を大切にしている心が育っている。「科学する=考える=面白い」という「心を育む保育」の展開を進めていく。